

## 令和6年度（第25回）善通寺市子ども・子育て支援会議 議事録

- 1 日 時 令和6年10月31日（木）15時00分～17時分
- 2 場 所 善通寺市役所4階 大会議室
- 3 出席者 委員11名  
欠席4名
- 4 会議の概要
  1. 保健福祉部部長挨拶
  2. 会長・副会長挨拶
  3. 議事
    - (1) 第3期善通寺市子ども・子育て支援事業計画にかかる骨子（案）について
    - (2) その他
- 5 資料
  - ・第3期善通寺市子ども・子育て支援事業計画にかかる骨子（案）
  - ・教育・保育給付、地域子ども・子育て支援事業の見込み
- 6 会議録
  1. 議事

第3期善通寺市子ども・子育て支援事業計画にかかる骨子（案）について

〔事務局〕 調査業務委託先である株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所より、資料「第3期善通寺市子ども・子育て支援事業計画にかかる骨子（案）」に沿って説明。

〔会 長〕 各委員様の立場からご意見があればいかがでしょうか。

就労の方が前回よりも圧倒的に増えている。働きながら子育てをすることの課題が出てきている。満足度について、医療、妊娠出産健診等は比較的満足度が高い、これに対し、地域ぐるみの子ども見守りや地域とのかかわりに関するところなどは弱い。地域ぐるみの子ども見守りや地域とのかかわりに関する充実度は満足しているという回答もあるが、「そうは思わない」、「あまりそうは思わない」と回答する割合が比較的大きい。

小学校になると特に、学校以外の支援として地域の支援が（乳幼児と比べて）足りていないというのが市民の感覚としてあるのではないか。

放課後支援についても触れているが、学校以外の地域での放課後支援について、スタディアフタースクール以外の支援をどのように考えていくかも課題となるので

はないか。

〔委員〕地域子育て支援拠点事業について、就労している家庭が未就学でも8割以上、就学児世帯ではほぼ9割を占めている。平日以外にも土日のニーズが高まっているのではないかと課題に感じる。虐待のケースについて、子どもの死亡率の半分が0歳児というデータがある。これに対し、乳幼児層は手厚いサービスがあるが、小学校以上になると地域のサービスが少なくなっている。高校になるとほとんどない。保護者がどこに相談したらわからないという声もあり、また乳幼児層と小学校以上では保護者の悩みなども変わってくる。乳幼児層への支援と合わせて、思春期にかけてのアプローチの改善も課題ではないか。

〔委員〕2期計画時のアンケートと3期計画に係るアンケートの比較のようなものはないのか。例えば、2期計画による取り組みの結果、成果について数値化されたものがあればわかりやすいのではないか。

〔会長〕このことについて、事務局で回答できる場所はるか。

〔事務局〕2期と3期で同様の内容の項目については比較ができると考える。取り組みの成果として数値化し、分析することについて、今後の参考とさせていただきたい。

〔副会長〕小児医療に対する満足度が比較的高いことは喜ばしい。昨今、働き方改革等により、時間外の診療が高額であることや、小児科医の高齢化などをふまえ、現在満足度が高い医療について、今後、満足度が維持できるものかが懸念される。

〔会長〕現時点ではこのような取り組みをしており、今後こういった取り組みをしていくということについて、今は何とかなっている、次の担い手がいないと続かない。10年後、15年後にどのような課題が出るのか、善通寺市を取り巻く環境がどうなるかを課題として想定し、どのように認識したうえで善通寺市としてどこを重視して取り組んでいくか示していけると継続的な議論もできるのではないかと考える。

〔委員〕保育士は不足してきていることに対して、早朝や遅い時間の保育時間や休日保育、病児保育のニーズは高まっている。各園で対象児童は少ないとしても、対象児童がいれば保育士を配置し、園を開けなければいけない。一つの園ですべてに対応するのは困難であり、そのようなニーズに特化した園を設置し、それぞれの役割について対応するということが将来的に必要となってくるのではないか。

〔委員〕特定の園でニーズが集中し、職員の負担となっていることは感じている。バス送

迎の専門スタッフ、帰りの預かり専門のスタッフなど、限定的なスタッフによる対応をしているところもある。このような形で職員負担の軽減を図ることもできるのではないかと。

[委員] 子どもの教育環境の充実度について満足度がやや低いところが気になる。学校ではコロナ明けということもあり、地域とのつながりに向けた教育活動を進めている。その中で、地域全体の子どもへの理解が課題であり、地域のつながりが希薄になっているところについて、地域で子供を育てていくということを考えていかなければならない。また、放課後、小学校の運動場で遊んでいる子供が多いが、安全管理の面など課題はある。

[会長] 他の自治体での例になるが、学校の校庭を使うことはハードルが高いという話がある。管理の問題があり、校庭の使用が認められないというケースがある。安全管理の課題があるが、これに対する課題としては放課後支援をどうするかという話になってくるのではないかと。

[委員] 一つのアイデアとして、保護者の方などの力を借りるのはどうか（校庭を遊び場として利用する際の監視者として当番制で対応いただくなど）。ただし、その場合はきちんとシステム化したうえでリスク管理に対応していく必要がある。

[会長] 子どもたちを取り巻く支援の現場は高齢者が子どもに関わっていることが現実にある。今後、小学校の統廃合などにより、統合された学校にマンパワーを投入し、質を維持していくことが必要となることを考えると、その際に、かかわりを持っていた大人をつなぎ留めておくことが重要。そのための下地づくりが将来的にも普通寺市で子育てができる環境を維持するために考えていかななくてはならない。

[委員] くすくすふれあい広場では中学生と乳幼児のふれあい体験活動を行っている。ふれあい広場に参加した赤ん坊が、いま、ボランティアとして子ども食堂に参加しているという事例もある。こういった地域の循環、持続的な仕組みづくりを進めていくことが10年後、20年後の取り組みに向けて大切ではないかと。

[会長] ソフト面の整備は1年でできるものではなく、何年もかけて取り組む必要がある。制度の整備も重要だし、それを動かしていく次世代の担い手を育てることについても議論していかななくてはならない。

[会長] 今後、人口が減少していくことが見込まれており、次世代の担い手がどこまでいるのかということを考え、子育ての体制を維持していくための取り組みを計画の中で市民の方に示せることができれば今後の流れも固まってくるのではないかと

考える。その他、ご意見無ければ事務局に進行を戻します。

(3) その他

〔事務局〕 調査業務委託先である株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所より、資料「善通寺市子ども・子育て見込み量」について補足説明。

〔事務局〕 本日頂いたご意見を踏まえ、今後、素案を作成していくことになる。引き続き、第3回計画の策定に向けて会議の開催を予定しているため、引き続き会議へご出席いただき、ご意見をいただきたい。

－ 閉会する －